

九州・沖縄地区ニュース

No.117 2019.3

日本学術会議の活動と大学教育

日本学術会議 九州・沖縄地区 代表幹事 君塚信夫

九州・沖縄地区の会員、連携会員の皆様には、平素より地区の学術活動の中心となってお活躍いただいておりますことを、厚くお礼申し上げます。九州・沖縄地区ニュース 117 号をお届けします。

日本学術会議は、我が国の科学者を代表する科学アカデミーとして、科学の向上発展を図り、また行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させることを目的としています。今年はその設立（1949 年）から 70 周年にあたります。現在、210 名の会員と約 2,000 名の連携会員より組織され、第一部（人文・社会科学系）、第二部（生命科学系）、第三部（理学・工学系）の 3 部構成で総ての学問領域を網羅するとともに、各部を横断する機能別委員会や課題別委員会（時限設置）、30 の学術分野別の委員会、7 つの地区会議、若手アカデミーならびに事務局が置かれています。日本学術会議は内閣総理大臣所轄の下にありますが、政府から独立して国や社会が直面する多くの課題に科学の立場から取り組み、政府や社会からの要請に応えるべく、科学的かつ学際的・総合的な観点から様々な勧告、要望、声明、提言、報告等が行われています。

これら日本学術会議の審議や討論は、学術分野別の委員会や課題別委員会において慎重に重ねられ、それを検証する手続きを経て公開されますので、かなりの時間がかかります。このように日本学術会議からの提言や報告等は、会員・連携会員が多くの時間とエネルギーを注ぐことによって、信頼性の高い科学者の意見として発出されていますが、これらが国の政策や社会の発展に貢献するためには、その内容を広く科学者コミュニティ、教育分野、行政分野、産業界や社会の人々との対話をはかりながら共有し、連携してゆくことが大変重要となります。

例えば、平成 20 年に、文部科学省から大学教育の分野別質保証の在り方について審議する依頼を受けたことを契機として、課題別委員会「大学教育の分野別質保証委員会」の下に、学術分野別の分科会が設置されています。各分野における大学教育の質保証に資するべく教育課程編成上の参照基準について検討・審議が重ねられ、これまでに 31 分野の参照基準が公表されています。言うまでもなく、各大学とも、自らの教育理念に基づき、そこで学ぶ学生の特性や教育の質保証のために活用し得るリソースを十分に考慮した上で、学士課程教育を通じて学生が獲得する具体的な学習成果を明確にし、それを実現するという観点から独自の教育カリキュラムを編成しています。従って、各分科会により纏められた参照基準は、各大学がそれぞれの学士課程教育の学習成果を明確にする際の一助となるよう、「すべての学生が身に付けることを目指すべき

基本的な素養」を掲げています。これら 31 の学問分野の参照基準は、日本学術振興会ホームページ（委員会一覧→課題別委員会→大学教育の分野別質保証委員会）に公開されていますので、是非ともご覧の上、大学や周囲の方々との共有を図り、その活用の可能性について様々な観点で議論を続けていただきたく存じます。

私たちは常日頃、人文・社会科学、生命科学、理工工学にわたる様々な専門分野で日本の学術・科学の推進を担う立場にありますが、会員・連携会員の全員が、世代を超えた科学者コミュニティー、学協会、教育分野、産業界や社会の人々とコミュニケーションしあうことによって、新しい問題の発見や、その解決の糸口を共有できることが期待されます。科学者懇談会・学術講演会は、この機会のひとつを与えるもので、平成 28 年度より春・秋 2 回開催されています。平成 30 年度は、それぞれ鹿児島大学、熊本大学にお世話いただき開催されました。鹿児島市、熊本市における科学者懇談会には武内副会長にお越しいただき、日本学術会議の活動等についてご報告いただいた後、日本学術会議と地区会議のあり方、日本学術会議への要望、そして地域社会における学術と科学の役割について活発な意見交換がなされました。鹿児島市には会員 1 名、熊本市には連携会員 7 名の参加をいただくことができました。また学術講演会の方は、お世話役をお願いした鹿児島大学、熊本大学のお声がけで、地域の多くの大学を代表する研究者の皆様、一般市民の方々にご参加いただき、大変有意義な会となりました。ここに深く感謝申し上げます。

九州・沖縄地区の学術・科学技術の振興と地域創生に結び付けるためには、会員・連携会員、研究者の皆様による地区会議活動への益々の積極的なご参加とご協力が是非とも必要です。皆様には、引き続き大きなご関心をお寄せくださいますよう、心からお願い申し上げます。

【科学者懇談会の開催】

平成 30 年 9 月に鹿児島市、平成 31 年 2 月に熊本市において科学者懇談会を実施いたしました。

例年 2 回、その時々々の学術を取り巻く環境が変わる中、日本学術会議の会員と各地域で研究活動を行っている連携会員や研究者との間で、意見交換や情報共有を行う貴重な場として科学者懇談会を開催しております。

平成 30 年度の科学者懇談会では武内副会長にお越しいただき日本学術会議の活動等についてご報告いただいた後、日本学術会議への要望やあり方などについて活発な意見交換が行われました。

平成 30 年度第 1 回 科学者懇談会

日 時：平成 30 年 9 月 10 日（月） 12：30～13：30

場 所：鹿児島大学事務局 4 階第三会議室

出席者：

日本学術会議	副会長	武内 和彦
	九州・沖縄地区会議 代表幹事	君塚 信夫

	九州・沖縄地区会議 会員 (鹿児島大学名誉教授)	秋葉 澄伯
鹿児島大学	学長	前田 芳實
	理事 (総務担当)	島 秀典
	理事 (教育担当)	清原 貞夫
	監事 (業務監査)	伊牟田 均
	学長補佐 (研究推進担当)	宮田 篤郎
	法文学部長	高津 孝
	工学部長	渡邊 睦
	農学部長	岩井 久
	水産学部長	越塩 俊介
	理工学研究科 副研究科長	武若 耕司
	臨床心理学研究科長	中原 睦美
	難治ウイルス病態制御研究センター長	池田 正徳
国立大学法人鹿屋体育大学	理事・副学長	森 司朗
鹿児島工業高等専門学校	校長	丁子 哲治



鹿児島市で開催した科学者懇談会の様子

平成30年度第2回 科学者懇談会

日 時：平成31年2月27日（水）12：30～13：30

場 所：熊本大学事務局1階大会議室

出席者：

日本学術会議	副会長	武内 和彦
	九州・沖縄地区会議 代表幹事	君塚 信夫
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (熊本大学大学院人文社会科学研究部教授)	慶田 勝彦

	九州・沖縄地区会議 連携会員 (熊本大学教育学部シニア教授)	石橋 敏郎
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (熊本大学大学院生命科学研究部名誉教授)	山縣 ゆり子
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (熊本大学生命資源研究・支援センター教授)	荒木 喜美
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (熊本学園大学大学院会計専門職研究科専任教授)	佐藤 信彦
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (熊本大学大学院先端科学研究部教授)	高野 博嘉
	九州・沖縄地区会議 連携会員 (熊本大学大学院先端科学研究部教授)	西山 忠男
熊本大学	学長	原田 信志
	理事 (教育・学生支援担当)	古島 幹雄
	理事 (研究・社会連携担当)	松本 泰道
	理事 (人事・労務担当)	山崎 広道
	理事 (目標・計画、評価担当)	竹屋 元裕
	理事 (財務・施設担当)	有松 正洋
熊本保健科学大学	学長	崎元 達郎
熊本学園大学	理事	花田 昌宣
崇城大学	学長	松下 琢
東海大学	総合農学研究所 教授	今川 和彦
熊本県立技術短期大学校	校長	里中 忍



熊本市で開催した科学者懇談会の様子

【学術講演会の開催】

平成30年9月に鹿児島市、平成31年2月に熊本市において学術講演会を実施いたしました。

「南九州におけるウイルス感染症とその制御に向けた挑戦」 鹿児島大学

日 時：平成30年9月10日（月）14:00～16:15

場 所：鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール

平成30年9月10日（月）に鹿児島市において、日本学術会議九州・沖縄地区会議主催、鹿児島大学共催により「南九州におけるウイルス感染症とその制御に向けた挑戦」をテーマにした学術講演会を開催しました。

日本学術会議の武内副会長及び鹿児島大学の前田学長のご挨拶の後、鹿児島大学の石塚教授、久保田教授、馬場教授及び小澤准教授の4名の先生を講師に迎え、テーマに沿った講演を行っていただきました。

当日は、大学関係者の他一般市民も含め100名以上の参加があり、盛会裏に終了しました。

【各講演のテーマ】

『人類は成人T細胞白血病・リンパ腫を克服できるか？』

鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センター 教授 石塚 賢治

『HTLV-1で起こる神経難病：HAM』

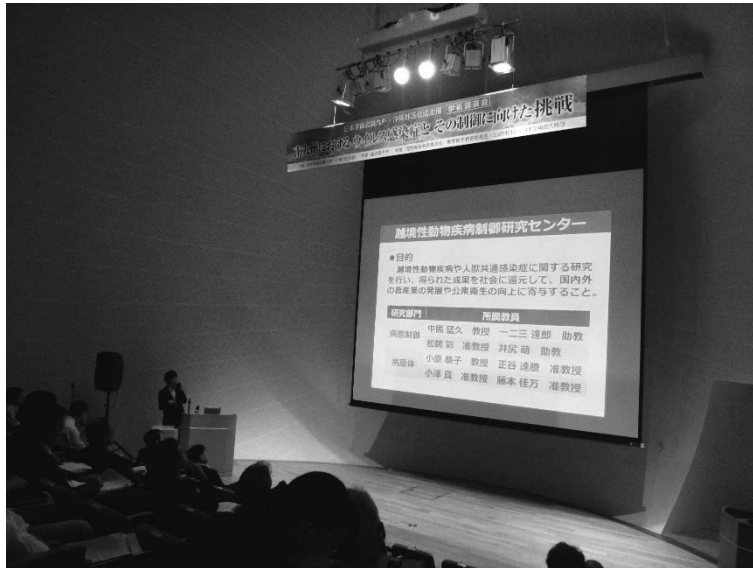
鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センター 教授 久保田 龍二

『鳥インフルエンザの制御を目指して』

鹿児島大学共同獣医学部 准教授 小澤 真

『重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とその治療薬に関する研究』

鹿児島大学副学長・難治ウイルス病態制御研究センター 教授 馬場 昌範



鹿児島市で開催した学術講演会の様子

講演会の感想(アンケート調査から抜粋)

30代 男性

出水平野において鶴だけではなく鴨も警戒が必要である事は初耳であり非常に印象に残った。出水は地元であり鳥インフルエンザ関連の話は知っていたが、検疫体制に鹿児島大学が一役買っていることをしることができて良かった。

50代 女性

様々なウイルス疾患について最新の研究を知ることが出来て大変勉強になりました。

10代 男性

- ・南九州の中でも特に鹿児島県のウイルス感染症の数は多いと分かった。
- ・有効な薬を作るにはさまざまな方法を試す必要があると思った。

「熊本地震の復興に貢献する熊本大学の学術研究」 熊本大学

日 時：平成31年2月27日(水) 14:00～16:20

場 所：熊本大学工学部百周年記念館

平成31年2月27日(水)に熊本市において、日本学術会議九州・沖縄地区会議主催、熊本大学共催により「熊本地震の復興に貢献する熊本大学の学術研究」をテーマにした学術講演会を開催しまし

た。

日本学術会議の武内副会長及び熊本大学の前田学長のご挨拶の後、熊本大学の稲葉教授、上瀧准教授及び円山准教授の3名の先生を講師に迎え、テーマに沿った講演を行っていただきました。

当日は、大学関係者の他一般市民も含め100名以上の参加があり、盛会裏に終了しました。

【各講演のテーマ】

『永青文庫細川家史料と地域史料—文化財レスキュー事業の経験から—』

熊本大学永青文庫研究センター教授 稲葉 継陽

『画像処理を用いた石垣照合システムによる熊本城復興支援』

熊本大学大学院先端科学研究部（工学系）准教授 上瀧 剛

『益城町の復興まちづくりを支援する実践的研究』

熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター准教授 円山 琢也



熊本市で開催した学術講演会の様子

講演会の感想(アンケート調査から抜粋)

20代 女性

石垣画像処理の話はとても面白かったです。花畑屋敷が地震に備えた居住であったことを知ることができてよかった。

60代 男性

3人の方それぞれ興味ある内容で面白かった。これから数年後の報告も御三人にお話をうかがいたい。

【お知らせ】

日本学術会九州・沖縄地区会議では、平成31年度、以下のとおり学術講演会の開催を予定しております。詳細につきましては、決定次第お知らせいたします。

日時： 平成31年度 下半期

場所： 宮崎市内（未定）

日本学術会議 九州・沖縄地区会議

会員一覧

秋葉 澄伯	（第三部所属	鹿児島大学名誉教授）
君塚 信夫	（第三部所属	九州大学大学院工学研究院教授）
谷口 倫一郎	（第三部所属	九州大学大学院システム情報科学研究院教授）
土井 政和	（第一部所属	九州大学大学院法学研究院教授）
中村 崇	（第三部所属	東北大学名誉教授）
宮崎 康二	（第二部所属	医療法人聖粒会慈恵病院顧問）
森 正樹	（第二部所属	九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科教授）

※五十音順

発行 2019年3月

編集 日本学術会議 九州・沖縄地区会議

日本学術会議 九州・沖縄地区会議事務局

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

九州大学研究・産学官連携推進部研究企画課内

電話 092-802-2321（ダイヤルイン）

FAX 092-802-2391

E-mail kissomu@jimu.kyushu-u.ac.jp